

## 幼い心に向き合って

園長 渡邊 博典

いよいよ6月（水無月）、今月は梅雨のような空模様が続き、洗濯物が乾かない日が多かったことと思います。4月から2か月が経ち、園では、子ども達と保育者との関係も深まって毎日元気な声があちらこちらから聞こえてきます。

「ねえ、ねえ、これ見て」

「僕の〇〇いいでしょう！」

「私、〇〇作ったの」・・・etc、

子どもは素直に自分の気持ちを開き、共感を求めてきます。

「どうして〇〇は△△なの？」

「どうして、どうして？」

きっとご家庭でも子どもからのこんな声かけが多くあることでしょう。この純粋な幼い心ときちんと向き合っていくことを大切にしたいものです。

さて、連休明けの10日から実施しましたクラス懇談会にご参加いただき、ありがとうございました。密を避けて短時間での実施となり、自己紹介中心の内容でしたが、初めてのクラス全員の保護者との顔合わせとなり、子ども達の表情も緊張した様子でした。

また、先日は、保護者役員会が行われ、私も出席させていただきました。ご多忙の中、企画・運営していただいた役員の皆様に感謝申し上げます。その議題の一つに、今後の行事の在り方についての意見交換がありました。特に、コロナ禍における保護者会が主体となる行事（夏祭り、バザー等）について、活発に話し合われました。しかし、それらの行事と併せて、園が主体となる行事（プール活動、C組のキャンプ～お泊り保育等）についても、先行きの見えない社会情勢の中、現時点で決められることが少なく、「それぞれの行事の1か月前には、実施

の可否、実施する場合の方法等を定める」と確認しました。コロナ禍での教育実践をどのように進めるか、子どもの安全を第一に、そして子どもの成長につながる内容となるよう保護者会と連携して検討していきたいと思います。

【左：お誕生会の劇】



【上：クラス懇談会】

